

同志社大学スポーツ健康科学部
2025年度 自己推薦（スポーツ）入学試験
結果講評について

同 志 社 大 学
スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2024年11月1日に2025年度「自己推薦（スポーツ）」入試の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後も勉学と競技活動の両立を目指す生徒さんを対象とするものです。出願に際しては、全国大会または国際大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第3学年第1学期末までの評定平均値が3.2以上であることが条件となります。

本入試は、第1次選考が書類審査（40点満点）と英語加点（20点満点）、第2次選考が小論文審査（50点満点）と面接審査（20点満点）で行われ、合格判定は、第1次選考と第2次選考の結果を総合（130点満点）して厳正に選考しました。

第1次選考における競技成績の判定に際しては、各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も考慮し、また英語加点も加味して詳細に検討した結果、出願者79名中55名を合格としました。

第2次選考の小論文審査では、課題に対する論理的・客観的思考力および記述力を評価の主要観点としました。普段からスポーツ・健康科学にまつわる事象について関心や疑問を持ち、思考する習慣が必要となります。優秀な学生アスリートにとっては大切な態度・能力のひとつであり、同志社スポーツが目指す精神（自治自立）でもあります。

第2次選考の面接審査は、受験生1名に対して2名の面接官で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等をよく把握している受験生が多数おられましたが、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名おりました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であると同時に、競技だけではなく広い意味でのスポーツ健康科学の発展の担い手になってくれることを期待しています。課外活動のみを希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨の通り、入学後に学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ方を希望しています。

以上の第1次および第2次選考の結果、最終的に36名の合格者を決定しました。最終倍率は2.2倍でした。スポーツ健康科学部の求める学生像に即して、様々な競技種目から文武両道に長けた優秀な方々を選出しました。この入試で合格された方々が、今後、本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍してくれることを大いに期待しています。

以 上

<2025年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	79名	47名	32名
第1次選考合格者	55名	31名	24名
第2次選考合格者	36名	20名	16名

<合格者の競技種目>

ボート、ハンドボール、空手道、剣道、テニス、ラグビーフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトテニス、射撃、少林寺拳法、軟式野球、ダンス、カヌー、山岳、自転車競技、テコンドー、車いすバスケット、バトントワリング、バスケットボール、バドミントン、ボウリング、硬式野球

2025年度 同志社大学スポーツ健康科学部
スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
小論文 試験問題

受験番号

- 注意:1. 解答は別紙の解答用紙 1 枚にすること。
2. 問題用紙・解答用紙を持ち帰ってはならない。
-

<問題>

日本スポーツ協会（JSPO）は、2022年4月にスポーツ少年団の全国大会の中止も含め検討すると発表していました（毎日新聞 2022年4月23日）。しかし、今年の3月に全国大会については当面の継続が決定され、新たな運営方針を来年度中にまとめる方向で議論が進められています（別紙 朝日新聞 2024年3月7日）。

そこで、まず、全国大会の中止が検討されたのちに、当面の継続が決定された経緯をふまえ、スポーツ少年団の大会のあり方について、あなたの考えを述べてください。そして、次に3歳以上の幼少期におけるスポーツへの関わり方について、どのような取り組みが適切なのか、子どもを取り巻く、①指導者、②保護者、③地域の人々に焦点をあて、あなたの考えを800字以上1200字以内で述べてください。

（以下余白。余白は下書きに使用してください）